

第2弾

特別講演会「AIに負けない力を育む子育て」  
令和4年12月10日(土)

# AIに負けない力を育む子育て

参加者19組(大人23名 乳幼児15名 計38名)



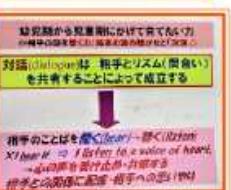
## ～乳幼児期の遊びの大切さ～



講師: 仁田伸子先生  
経済格差は影響するか?  
お茶の水女子大学 名誉教授  
十文字学園女子大学 名誉教授  
内田伸子先生



子育てに「もう遅い」はありません。AIに負けない非認知能力(忍耐力・社会性・感情コントロール)はどうしたら育つ?家庭の経済事情と学力に関係はあるの?などを最新の脳科学や心理学の知見に基づき乳幼児期~児童期の子育てについて講演していただきました。



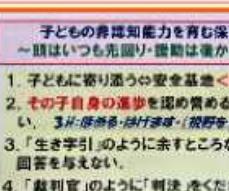
第一次認知革命(生後10ヶ月)  
I. 頭の中に起こる変化  
1. イメージの誕生  
2. 記憶し、想起できるようになる  
3. 物語認証「モノの同一性認識」が始まる

※得意分野の性差  
△女児は男児より  
左脳の成熟が速い

聞く(hear)  
…音楽として聞く  
聴く(listen)  
…丁寧に聞く

リテラシーの習得に  
経済格差は影響するか?  
1. 読みと書き  
…読み始めでなければ5歳になら  
家庭の収入による差が顕著化する  
2. 読書能力に収入による差が顕著化する

II. 外からわかる変化



しつけスタイルと語彙能力

離間校突破組で  
最離間国家試験突破

非認知能力 ⇔ AIに負けない力

子どもの非認知能力を育む保護者の役割

語彙得点が高い子どもは、  
共有型しつけを受けており

小学校就学前にても離間を取り組んでいたこと

子どもがより年少の時点、  
特に、幼少期~小学校低学年の経験(生活・遊び)

～頭はいつも先回り、頭筋は後からいいでいい～

語彙得点が低い子どもは、  
強制的しつけを受けている

・思いっきり遊ぶこと  
遊びの時間などと共に過ごすこと  
子どもの興味や好きなことに集中して取り組むこと

によって決まる

1. 子どもに寄り添うや安全基準<信頼関係>  
2. その人の歩みを認めめるや他児と比べない、  
3. ほめる・ほげほげ・褒美をひらく  
3. 「生き字引」のように余すところなく定義や解説、回答をえない  
4. 「裁判官」のように「判決」をくださない  
⇒禁止や命令ではなく「提案」を!  
5. 子ども自身が考え、判断する余地を残すこと  
⇒自律的思考力そして非認知能力!



参加者からは「とてもためになるお話、ありがとうございました。日々、子育てする中で強制型でのしつけをしてしまうこともあります。自由にさせたい気持ちがありながら、ダメ!とやめさせてしまうことがあるので、もう一度子どもと対話しながら子育てしようと考えさせられました。「今、1歳11ヶ月の男の子を保育園に行かせていますが、本当にこのころの発達の進み方は個人差があると感じます。私の息子はマイペースですが、園でいっぱい刺激を受けて楽しそうにしています。家の間取り方も大切にしながら、子育てを楽しんでいこうと思います。」「子ども左側の遊びや親の声かけの重要性をデータとともに説明していただき実感しました。今後の子育てに生かしていきたいです。」「毎日、子どもと一緒にいる中で、私自身の心の余裕が無かったり、生活時間の都合で夢中になっていることを途中でやめたり、大きな声で叱ったりすることも多いことを、今日のお話を聞く中で、反省しました。子どもがずっと話していると、家事で忙しい時はつい相手することを避けてしまいかがちですが、できる限り子どもの気が済むまで向き合っていきたいと思いました。」などとても好評でした。

